

# 「Mastery for Serviceを生きる」

田 淵 結

二年生以上の皆さんはもちろんのこと、4月に入学された一年生諸君も、もう何度も“Mastery for Service”という言葉に耳にされていることでしょう。21年前、阪神淡路大震災発生翌日、当時宗教センターに集まった学生・教職員でボランティア活動がたちあげられようとしたとき、一人のOBが「今こそあなたのMastery for Serviceを！」という一枚のポスターを描かただけで去って行かれました。これが最初のボランティアワークとなりましたが、この言葉こそが関西学院のその後震災救援活動を支えるものとなったのです。

関西学院は、前院長であるグルーベル先生のもとで、21世紀に向けてのミッションステートメントを発表しましたが、そのなかに「思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する」という言葉があります。私たちのスクールモットーは、単なる言葉ではなく、それによって社会がよりよく変わるための行動、生き方を示すものと理解されているのです。別の言葉で言うと、皆さんが関西学院らしいリーダーシップを、皆さんの場で発揮することが期待されているのです。リーダーシップというと、何かグループをぐいぐい引っ張る強さのようなイメージがありますが、関西学院の考えるリーダーは、グループメンバーへのサービスをする存在なのです。自分の思いを一方向的に押し付けるのではなく、それぞれの思いをしっかりと受け止め、自分の属するグループが全体として求める目標を明確にし、メンバーひとりひとりの達成感を導き出すことのできるリーダーとなっていただきたいのです。そんなことは理想的すぎるかもしれませんが、しかしだからこそ自分がそうなれるために、学び、考え、訓練され、体験を重ねるなかで、自然とみなさん自身が、いろんところで「求められる存在」になっていく努力を今日から始めていただきたいと思います。

Mastery for Serviceを体現する、それは言葉を換えていえば、みなさんりのリーダーシップのスタイルを確立し、それを発揮すること、ということになるでしょう。関西学院での学びに真剣に取り組んでいただくなかで、「死に至るまで従順に」私たちに仕えられた「主」と呼ばれるイエス・キリストの存在を関西学院が土台に据えているというその意味をもしっかりと受けとめていただくことを願っています。

(院長)